

# 問いをもち、考え続ける姿勢を育てる指導の工夫 -再考の場のデザインともやもやスッキリシートを通して-



特別研修員 数学 橋本 知侑(中学校教諭)


<b>生徒の実態</b> 自分の考えに自信がもてず、他者へ頼る傾向が見られ、一人で考え続けることに課題がある	<b>手立て 1</b> <b>再考の場のデザイン</b> 「考える→記録する→共有する→再構築する」という授業構成とし、一人で考える時間と再構築へ至る学習過程を授業の中に位置付ける	<b>成果</b> ・自分の理解や疑問を自覚しながら学習に取り組む姿勢が育った ・記録を基に他者と共有したことにより、他者の考えを取り入れ、自分の考えを作り直す行為が促された
<b>教師の願い</b> 問いをもち、他者との対話を通して考えを深め、自分の思考を再構築できる生徒になってほしい	<b>手立て 2</b> <b>もやもやスッキリシート</b> 自分の理解や疑問を可視化し、再構築の出発点を明確にする	<b>課題</b> ・思考力、判断力、表現力等を働かせた学習過程を充実させるために、知識及び技能に関する発問を抑え、思考力、判断力、表現力等に関する発問を意図的に増やす ・自分の思考の再構築を明確に捉えさせるために考えの変容や深まりが表れる記述を促す

単元名:「方程式」(第1学年)


問題「ある集まりで、用意したお菓子を子供たちに分けることになりました。ところが、正確な人数が分かりません。そこで試しに配ってみると、1人に4個ずつ配ろうとすると9個足りませんでした、1人に3個ずつ配ると15個余ってしまいました。子供の人数は何人でしょう。」

## 手立て1 再考の場のデザイン (①~④)

**①考える・・・問題の解決方法を個別で考え、うまくいかないことや分からないことを明らかにする**

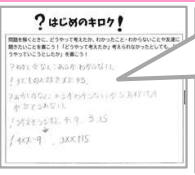


「 $4x-9$ と $3x+15$ という式ができたけど、この2つをどうすればいいか分からない」




「最初に一人で考えてから、問題に取り組んだから、授業の内容や問題がよく分かった」(授業後アンケート)

**②記録する・・・理解状況や疑問点、友達に聞きたいことなどを言葉や式、図で整理する**

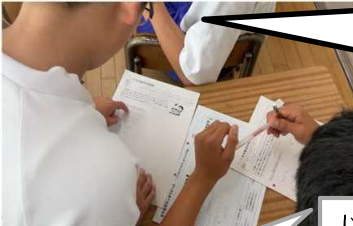


「?」は疑問  
「!」は分かったこと




「自分の考えが文字になって自分の疑問や分からないことが整理できたから、考えやすくなった」(授業後アンケート)

**③共有する・・・考えを共有しながら、他者の視点を得る**




「じゃあ $4x-9$ と $3x+15$ を=にすればよかったのか。お菓子の数は同じだからか。」




「自分の解答が間違っていたらまた自分で考えを再構築する時間ができるのがいいなと思った」(授業後アンケート)

**④再構築する・・・他者との交流を通して得られた新しい気付きや、自分の考えの変化を整理する**



「何をxでおくか分からない⇒子供の人数をx人にする  
?方程式が立てられない⇒ $4x-9=3x+15$   
お菓子の個数は等しい      お菓子の個数=お菓子の個数



前時

本時